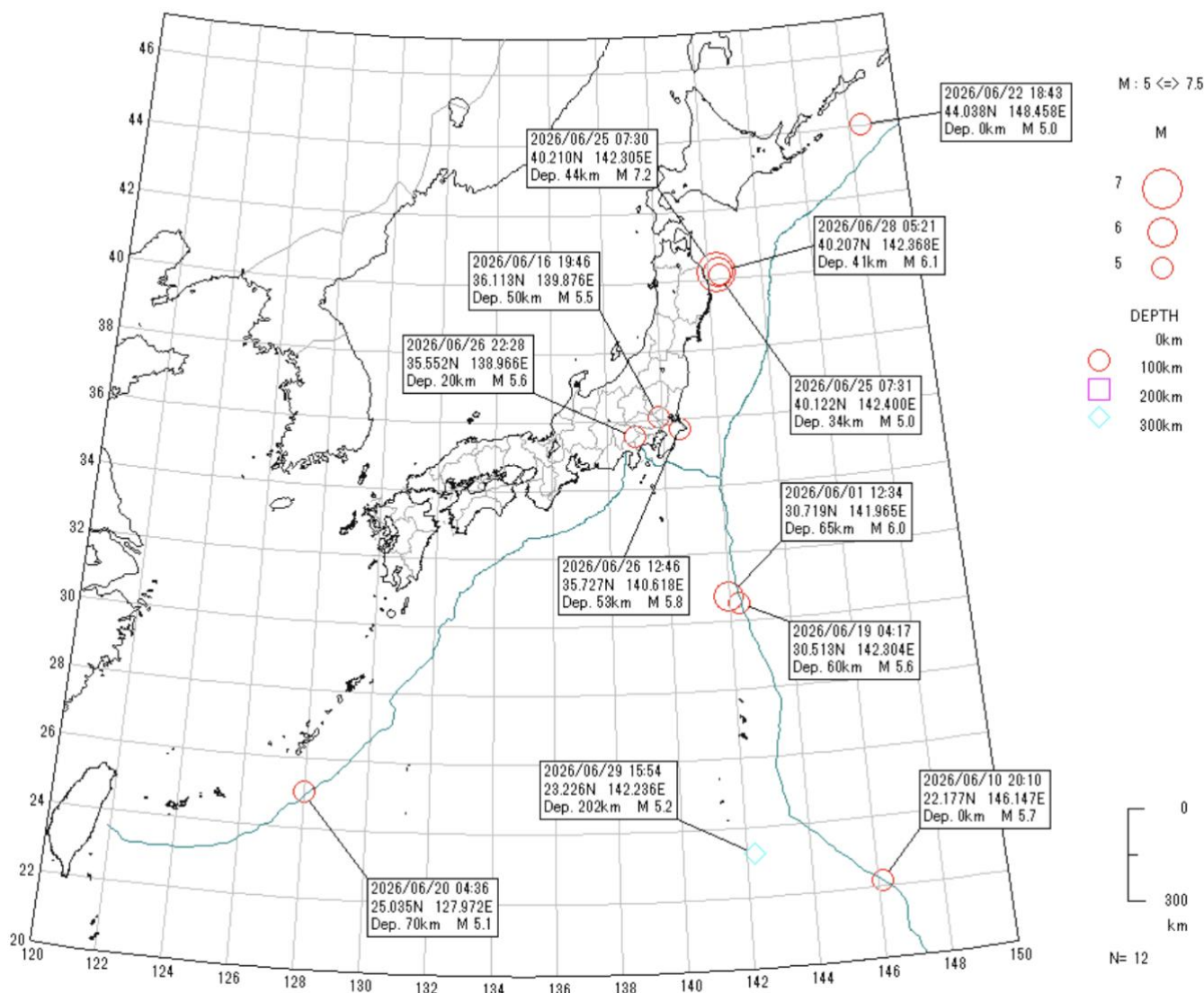


6月の地震活動概観

6月は日本列島およびその周辺でマグニチュード5以上の地震は12個発生しました。最大の地震は岩手沖で6月25日に発生したマグニチュード7.2の地震でした。また特筆すべき事として、関東地方で3個のマグニチュード5以上の地震が続けて発生した事です。

2026 6/1 1:0 — 2026 6/30 23:59

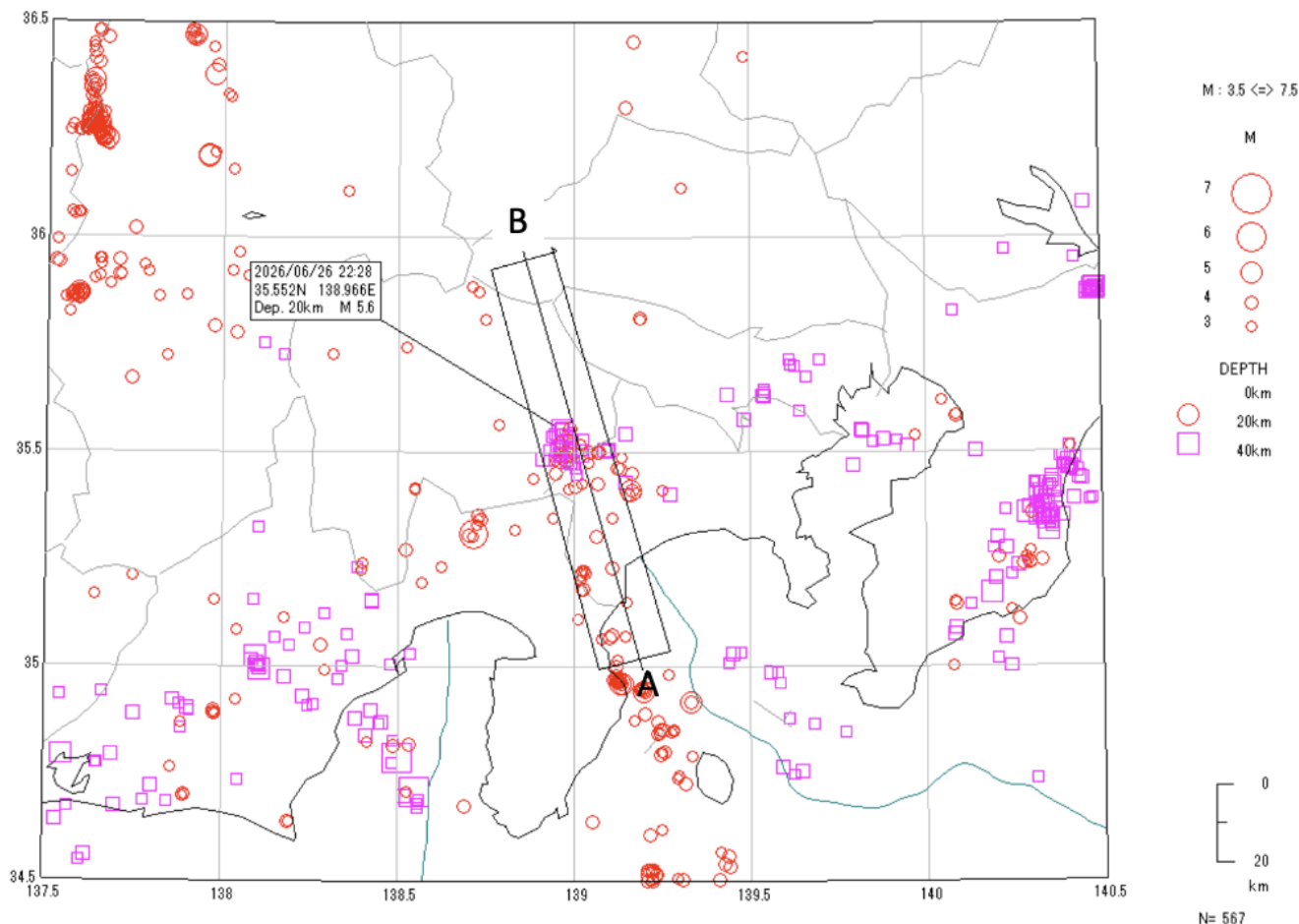


特に6月29日のニュースレターでも紹介しました山梨県東部・富士五湖の地震は富士山に近かった事から、富士山噴火と関係づけた SNS も多数見られたようです。ちなみに現時点で富士山の活動に特段の変化は観測されていません。この地震は沈み込むフィリピン海プレートとその上側に存在する陸のプレート(北米プレート)との境界で発生したようです。

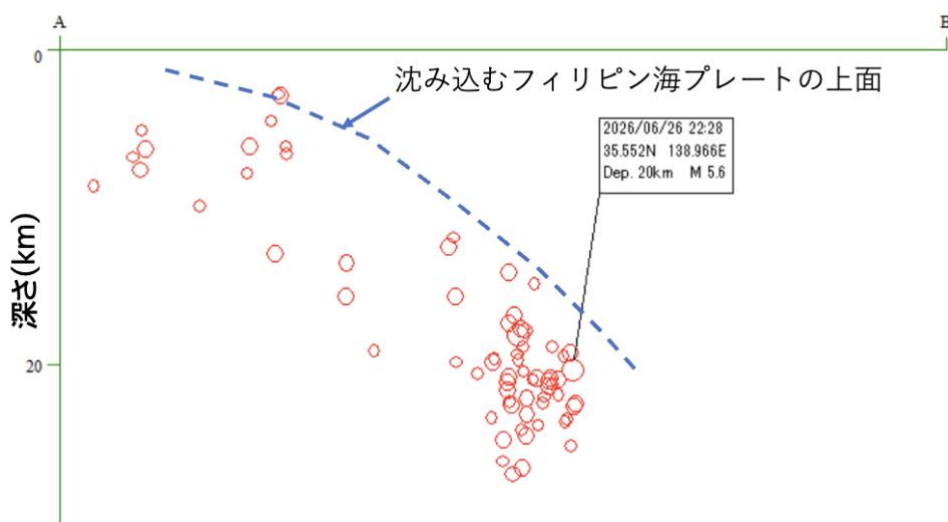
次のページに山梨県東部・富士五湖を含む地域の過去の地震活動と、フィリピン海プレートの沈み込む方向の断面図(A-B 断面)をお示しします。

この地域では、フィリピン海プレートは伊豆大島の方から、山梨県東部の方向に沈み込んでいと考えられています。

2000年から2026年7月2日までに発生したM3以上の地震



上の図中の A-B 断面を下に示します。6月26日の地震の位置も示しました。この地震がフィリピン海プレートの上面付近で発生していた事がわかります。



日本列島陸域の地下天気図®

5月25日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域(+海陸境界域)に特化した地下天気図解析です。今週は7月2日時点の M タイプ地下天気図をお示しします。



5月に比べて、北海道西方沖での地震活動静穏化(青い領域)がより顕著になっている事がわかりました。九州南方の静穏化領域は5月とほとんど変化していない事もわかりました。

小さな変化ですが、九州北方に長らく存在していた静穏化領域が今回の解析では認められません。福岡県には警固断層という2005年3月の「福岡県西方沖地震」の時に割れ残った断層が福岡市の直下を通っています。この事も頭の片隅に入れておく必要があらうかと思えます。

北海道北部、稚内周辺の地震活動活発化領域は少し、活発化がおさまってきたようです。

青森県およびその沖合の地震活動活発化は最近の地震活動からも直感と一致するのではないのでしょうか。この地域では1994年12月に三陸はるか沖地震(M=7.6)が発生していますが、この地域では、現在スロースリップも発生しているようで、現在最も M7 クラス以上の地震の発生可能性地域が高い地域と考えられています。

